

コニカミノルタ、約200のロボットで
年間2万時間以上の削減効果
RPAの自律的推進が課題提起型
デジタルカンパニーへの変革を牽引



KONICA MINOLTA



組織の概要

2003年に経営統合して誕生したコニカミノルタ。複合機とともにお客様の働き方に合わせたサービス・ソリューションのご提案を行うオフィス事業を中核に、世界約150カ国、約200万社のお客様の業務の現場に、高付加価値な製品・サービスを提供しています。現在、ビジネス社会・人間社会の進化の為に、デジタル技術を使って新たな価値を創造する「課題提起型デジタルカンパニー」への変革を進めているところです。

課題 デジタルを使ったプロセス改革の切り札としてRPA導入に着手

コニカミノルタは、顧客企業に様々な付加価値を提供する課題提起型デジタルカンパニーへ生まれ変わる変革の途上にあります。そこで、社内の改善、改革を担う業務改革プロジェクトが立ち上がりました。社員一人あたりの業務パフォーマンスは高く、さらなる改革を進める上で白羽の矢が立ったのが、当時、業務改革ツールとして浸透しつつあったRPAでした。

一方、IT部門の中期計画にも「業務効率化の推進」がテーマとして掲げられていたことから、「バックオフィスの業務をよりコンパクトにし、戦略や企画業務により多くのリソースを割くこと」を目的に、全社の業務改革プロジェクトとしてRPA導入を検討することになったのです。

ソリューション

グローバルでの豊富な実績と現場での使い勝手の良さが決め手

RPA導入プロジェクトは2017年4月にスタート、まずRPAツールの選定が行われました。選定のポイントとして、海外拠点で使えることを想定し、グローバルに対応するツールである点と、ソフトウェアロボット(Bot)の開発のためのエンジニアを持たず、導入先の業務部門が自律的に推進していくことを想定し、使い勝手のよい製品である点が重視されました。

複数の候補の中から、トライアルを含めPoCを約3か月にわたって行い、予算を含めて総合的に判断した結果、サーバー型RPAの「Automation Anywhere Enterprise」の導入を決めました。

メリット

約 200

稼働中のBot数

年間 24,000 時間

削減時間

64%

導入済みの部門の割合

自動化されたプロセス

- 企画：市場情報に関するレポート作成や商品化計画の配信
- 設計：CAD属性項目追加
- 試作：品質評価レポート作成
- 調達購買：発注システムへの転記や請求書突合
- 生産：標準原価設定や設計変更データ転記
- 流通：在庫管理や販売予測変更連絡
- 販売：受注登録や販売実績集約
- 保守：問い合わせ状況棚卸し・保守更新見積送付
- その他、総務、経理、IT、人事・労務管理など

業界

- ・オフィス事業
- ・プロフェッショナルプリント事業
- ・ヘルスケア事業
- ・産業用材料・機器事業

「非エンジニア人材でもロボットを作りやすい操作性の良さと、ガバナンスのための管理機能の充実が採用の決め手となりました」



ー コニカミノルタ ジャパン株式会社
マーケティング本部
オフィス事業統括部
オフィス事業企画部
企画2グループ
武藤 崇志 氏

詳細

運用設計からコアメンバーへの教育などの初期導入のフェーズが最も重要だった

ツール選定後の2017年6月から9月に運用設計を行い、10月からは初期導入のフェーズとして、コアメンバーの育成を実施します。これは、RPA活用を積極的に考えている部署から、開発者とその上長を対象に、約40名規模で実施されたものです。

そして、2018年の4月から本格展開を行いました。同社の運用の特徴は、バーチャルチームとしての「RPA事務局」が推進組織となり、導入、運用の技術相談は「よろず屋」という組織が担うことで、各部門がRPA運用を“自走”できるような、自律的推進をめざす点にあります。

たとえば、あるグループ会社の担当者は、最初はBotの作り方がわからない状態からスタートしたものの、自分でいろいろと調べて、コマンドやツールの使い方を頑張ってマスターし、Botを開発しただけでなく、今では、社内勉強会なども自分から主催する「伝導役」を果たすまでに成長しました。実際にこの部署では、RPAの推進の結果、社内で最も時間外労働が少ない部門になりました。

結果 社員自らによるデジタル(RPA)活用が功を奏し、生産性が劇的に向上

現在、IT部門や業務改革部門、国内グループ企業のコーポレート部門をはじめ、19のビジネスユニット・コーポレート部門の約7割のホワイトカラー業務にRPAが導入され、約200のBotが稼働し、社内業務における削減時間は年間24,000時間にのぼります。コニカミノルタの目指す「課題提起型デジタルカンパニー」を担う人材が、まさにデジタル(RPA)活用により生産性を向上させた結果と言えるでしょう。

また、定性的な効果では、財務部において、銀行の稼働日にあわせて行う業務が自動化された結果、休日出勤の必要がなくなり、さらには在宅勤務をはじめとする、より柔軟な働き方が実現できるようになりました。

今後

自社改革で得られたナレッジをもとに、パートナーとしてRPAの外販も拡大していく

目下、ヨーロッパやアジアパシフィック、中国など、グローバル拠点への展開を進めており、さらに、社内改革で蓄積されたナレッジをもとに、オートメーション・エニウェアのパートナーとして、社外のお客様への展開も強化していきます。

さらに、RPA導入を次の変革につなげていくために、「自律的推進」の先を見据え、より社内ニーズに沿ったプロアクティブなRPA展開、社内定着を進めていくそうです。

「社内でRPAを正しく理解してもらい、新しい人財であるロボット社員と適材適所で働く世界であることを実感してもらうことが成功のポイントでした」



— コニカミノルタ株式会社
IT企画部
ITプロジェクト推進グループ
マネージャー

田中 久美子 氏

「定着に大切なのはスキルや能力ではなく、担当者のパッションです。自分たちでロボットの開発が自走できるようになるのを見ると、やりがいを感じます」



— コニカミノルタ株式会社
IT企画部
ITプロジェクト推進グループ

大川 裕司 氏

Automation Anywhere について

オートメーション・エニウェアは、人がアイデア、思考、フォーカスを用いて企業を強化できるように支援します。私たちは、世界で最も洗練されたデジタルワークフォースプラットフォームを提供し、ビジネスプロセスを自動化し、人を定型的な業務から解放することでよりよい仕事環境の実現を支援します。

デモをご希望の場合は、下記メールアドレスからお申し込みください。

Automation Anywhere  <https://www.automationanywhere.com/jp>

 @AutomationAnwJP

 www.facebook.com/AutomationAnywhJP

 contact_japan@automationanywhere.com

無断複写・転載を禁じます。特に、Automation Anywhere、Automation Anywhereのロゴ、Go Be Great、BotFarm、Bot Insight、IQ Botは、米国またはその他の国あるいはその両方で認可された商標登録です。本書に記載されるその他の製品名は識別のみを目的としており、それぞれの所有者の商標です。

2019年11月バージョン1

